

山田上ノ台遺跡 (仙台市縄文の森広場)

平成 28 年 10 月 22 日(土)
仙台市教育委員会文化財課

I 調査要項

1. 遺跡名	山田上ノ台遺跡	4. 調査担当	仙台市教育委員会文化財課
2. 所在地	太白区山田上ノ台町	5. 調査面積	約 50 m ²
3. 調査主体	仙台市教育委員会	6. 調査協力	仙台市縄文の森広場

II 山田上ノ台遺跡の概要

山田上ノ台遺跡は、おもに縄文時代中期終わりごろ（およそ 4,000 年前）の大きなムラの跡です。ここからは昭和 55 年の調査で 38 軒の竪穴住居跡、60 個の貯蔵穴、3 箇所のごみ捨て場などがみつかりました。当時は見晴らしの良い台地の縁に数軒を単位とした 2 つの住居群を設け、まわりには貯蔵穴などを配置し、その内側は共同の広場となるよう、工夫された場の使い方をしていたと考えられます。このように、縄文ムラの構造を知る上で貴重な遺跡であることから、仙台市は遺跡を保存し活用することに決め、「仙台市縄文の森広場」として整備し、平成 18 年 7 月にオープンしました。

III 調査の概要

縄文の森広場がオープンした平成 18 年度から、仙台市教育委員会では毎年秋に縄文ムラの西側を発掘調査しています。

その結果、大小さまざまな石が密集している場所のあることが明らかになりました。

みつかった石の中には、石皿やくぼみ石といった木の実などを割ったりすりつぶしたりした石の道具も混ざっていましたが、多くは河原でひろえるような石です。山田上ノ台遺跡がある台地の上には、本来そのような石は存在しないため、縄文時代の人々が運んできて帯状に並べ置いたことがわかります。これを考古学では配石遺構と呼んでおり、ここで縄文人がお祭りをしていただ可能性が考えられます。

配石遺構の時期は縄文時代中期と考えられ、幅約 1.9~2.5m で、おおよそ東西方向にのびており、これまでみつかった長さで約 16m に及びます。今年度は、これまでの調査でみつかった範囲よりさらに西側に配石遺構がのびているかを調査しています。



配石遺構 (東から)



配石遺構 近景 (東から)

Y=150

Y=200

Y=250

X=-198050

X=-198050



縄文の森広場 ガイダンス施設

X=-198100

X=-198100

H20・21 調査区

H28 調査区

H22・24 調査区

H25 調査区

H26・27 調査区

第5次調査2区

第5次調査1区

X=-198150

X=-198150

Y=150

Y=200

Y=250



● 復元された住居が見つかった位置

0 S=1/2000 40m

Y=150

Y=200

Y=250